

## 講演会報告

社会情報学特殊講義B コミュニケーションの現在を考える  
2012年6月30日(土) 13:00~17:00  
青山学院大学青山キャンパス 17309 教室  
主催：青山学院大学社会情報学部ワークショップデザイナー育成プログラム  
協力：青山学院大学社会情報学部 / 特定非営利活動法人ワークショップデザイナー推進機構  
講師：苅宿俊文 参加者：約 190 名  
報告：石井理恵・菊地奈緒美（青山学院大学社会情報学研究所 特別研究員）

青山学院大学社会情報学部

臨時特別

授業 (講演会)

# 社会情報学 特殊講義 B

『コミュニケーションの現在を考える』

## ==== 時間割 =====

### 第 I 部 社会情報学特殊講義 B

- 1 時間目：注目されるコミュニケーション
- 2 時間目：多文化社会とコミュニケーション
- 3 時間目：コミュニケーションと場づくり

今回は授業風の講演会ということで、懐かしい学校のチャイムで始まりました。講演会は映像を見たり、○×カードをつかったり、ディスカッションをしたりして、参加型でおもしろい2時間になりました。

### 第 II 部 放課後の交流会

講演会の参加者にも多様な人が参加しており、分野を超えた交流をするため、ワークショップデザイナー育成プログラムの修了生がワークを企画して交流会が行われました。



## 1 時間目 「注目されるコミュニケーション」

### <高い能力が求められる ハイパーメリトクラシー>

今、就職活動は3年生からスタートしますが、試験をグループワークで行う企業があるなど、学生はコミュニケーション能力や問題解決能力など多様な能力が求められています。高校受験や大学受験は、特定の科目で判断されるのが普通ですが、大学を出るときは全てを求められていると言えますね。本田由紀は、このような能力を、ポスト近代型能力『ハイパーメリトクラシー』と呼んでいます。

また、経済産業省が提唱している『社会人基礎力』では、主体性や実行力からなる「前に踏み出す力」、課題発見力や創造力等からなる「考え抜く力」、傾聴力やストレスコントロール力等からなる「チームで働く力」という3つの能力が、職場や地域社会で仕事をしていくために必要とされています。

一方で、他者との関わりを重視すること＝SQ（かかわりの知能指数）が重要だとする新しい提案もあります。他人と関わること、自己犠牲を強いるのではなく、できる範囲でできることをやるのが幸せという価値観ですね。このように、私たちの能力や生き方にいろいろな考え方が出てきています。これらを見るときにはどちらがいい、悪いという判断基準ではなく、どのくらいフィットするかというフィット感が大切になります。

### <人間はコミュニケーションの動物である>

人間はもともとコミュニケーションする動物だと言われています。（映像：Talking Twin Babies を視聴）やり取りをするのがおもしろいと思うのは、人間がもともと持っている力です。そしておもしろさをキーワードにコミュニケーションを広げることもできます。コミュニケーションについて、コミュニケーション能力がないとか、衰えたということが言われますが、コミュニケーションを阻害する要因が出てきた、あるいは、見えるようになってきた、とは考えられないでしょうか。

### <多元化する社会のコミュニケーションと排他性>

多元化する社会では、会社や家庭だけではなく、さまざまなグループやコミュニティが生まれ、個人が参加する機会が増えています。もともと日本は「ハイコンテクストな社会」とされていて、同質性や共有性の高さが日本の特質とされています。このことは主語を省略するという日本語の特徴にも現れていますね。

例えば、最近で言えば、AKB48のメンバーを知っていてその話題で盛り上がる人もいます。AKB48は知らないという人も60年代アイドルの御三家の話題なら盛り上がる。ぼくもそっちです。つまり、自分の当たり前は、他の人から見たら当たり前ではないということが、コミュニケーションを考えるときに必要なセンスであり、離れて対象化して見るのが重要であると言えます。

世代の違いやオタク文化など、共通のおもしろさを分かち合えるということは、一方で排他を生んでいるということなんですね。多元性を否定する必要はありませんが、多元化する社会では、それぞれを俯瞰する力、高度なコミュニケーション力が求められていると言えます。

## 2 時間目 「多元化社会とコミュニケーション」

### <○× カードで多文化を感じよう！>

大学の授業で行っている方法で、授業をすすめていきます。学部の苅宿ゼミ生にステージにあがってもらい、皆さんはギャラリーとして、手元の○× カードで参加してください！

第 1 問

あなたは AKB のメンバーを 5 人以上知っている。○か × か。

第 2 問

あなたは御三家の曲を知っていて、少しは歌える。○か × か。

第 3 問

自分の周りでハイパーメリトクラシーを実感したことがある。○か × か。



### <世代間闘争 新しいリーダー像>

社会が多元化する事例として、世代間闘争が挙げられます。鈴木貴博は、『「ワンピース世代」の反乱、「ガンダム世代」の憂鬱』という著書の中で、生まれた世代によって、組織と自分との関係性＝縦の繋がりを大切にするガンダム世代と、仲間との横の繋がりを大切にするワンピース世代に分け、リーダー論や組織に対する考え方の違いについて述べています。

別の言い方をすると、今までの 50 年はものがあることが幸せな時代であり、これからの 50 年は納得することが幸せな時代です。働くだけではなく、他者や何かに貢献することが価値になっていきます。ヒューマンネットワークの結び目として居場所や意味を獲得し続けていくという生き方がうまれてきます。今はまさに時代の転換点なのです。

さて、新しいリーダー論として、ファーストフォロアという考え方があります。(映像：TED「社会運動はどうやって起こすか(裸の男とリーダーシップ)」を視聴) リーダーとして誰かを引っ張っていくのではなく、行動を起こしている人を最初にフォローし、どう楽しむのかを和文和訳して周りに伝えていくという新しいリーダー像です。社会が多面的になってくるとその分排他性も強くなっていきます。そこを通訳していく人が必要になってくる、それがファーストフォロアなのです。

## 3 時間目 「コミュニケーションと場づくり」

### <会場からの質問に答えながら、まとめ！>

Q1 ハイパーメリトクラシーで高い能力を求められていることが分かった。

そんな高い能力、誰が決めているの？

A 1 教育でいうと「生きる力」というのが約 20 年前から出てきました。それは、本当に学校で育てられるものなのか、それとも社会で育てていくものなのか、あるいは家庭なのか等様々な考え方があります。学校というのは社会の事柄が反映されるものです。

「能力」についての考え方も変わってきました。これまでは、階段を上るように理解していく学びで身につける能力。忘れてしまっても繰り返していくことで最後には階段を上りきって身に付けられるのが能力だと思われてきました。

しかし一方で、大人の学びは円環的な学びですよね、繰り返すことに意味があります。これは、協働的な学習です。現場で重要視されているのは個人の能力もそうですが関係性なのではないでしょうか。

学習にも 1 人でやるものと、共同体としてやることとがありますね。

ハイパーメリトクラシーは必要かもしれませんが、その答えを 1 人で持つのか、共同体で持つのかというところですね。すごく難しい問題だと思いますね。

Q 2 多元化社会の中で、どんなコミュニケーションが必要になりますか。

A 2 多元化社会の中で、縦型で細分化していく専門性やコンテキストを、横断的・越境的なヒューマンネットワークを築いていき、繋げていくことが必要ですね。

そのとき、俯瞰的に見ることや客観的に見る必要があるのではないのでしょうか。

## 放課後の交流会

苅宿先生の講義の中でも、横断的・越境的なヒューマンネットワークを築いていくことが必要という話がありましたが、交流会では様々な領域から「コミュニケーション」に興味のある今回の参加者のみなさんが、ワークを通して交流しました。

自分や誰かの「得意なこと」や「やりたいこと」を繋ぎ合わせたら新たなアクションが生まれるかもしれない！ということで、ワークショップデザイナー育成プログラムの修了生企画のワークを行い、様々な人と出会いました。

